

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成 24 年 6 月 7 日 (2012.6.7)

【公表番号】特表 2011-525156 (P2011-525156A)

【公表日】平成 23 年 9 月 15 日 (2011.9.15)

【年通号数】公開・登録公報 2011-037

【出願番号】特願 2011-514599 (P2011-514599)

【国際特許分類】

B 4 1 N 1/14 (2006.01)

G 0 3 F 7/00 (2006.01)

G 0 3 F 7/11 (2006.01)

G 0 3 F 7/004 (2006.01)

G 0 3 F 7/032 (2006.01)

G 0 3 F 7/029 (2006.01)

C 0 8 F 20/60 (2006.01)

C 0 8 G 65/336 (2006.01)

C 0 8 L 71/00 (2006.01)

【 F I 】

B 4 1 N 1/14

G 0 3 F 7/00 5 0 3

G 0 3 F 7/11 5 0 3

G 0 3 F 7/004 5 0 5

G 0 3 F 7/032

G 0 3 F 7/029

C 0 8 F 20/60

C 0 8 G 65/336

C 0 8 L 71/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 4 月 16 日 (2012.4.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

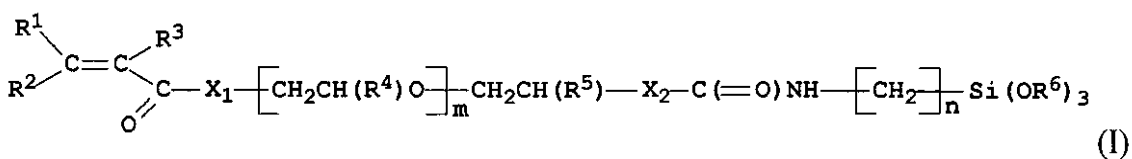
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

金属又はポリマー支持体を含み、当該支持体上に下記構造 (I) :

【化 1】



(式中、 R^1 及び R^2 は、独立に、水素、又は $\text{C}_1 \sim \text{C}_6$ アルキル、 $\text{C}_1 \sim \text{C}_6$ アルケニル、 $\text{C}_1 \sim \text{C}_6$ アルコキシ、 $\text{C}_1 \sim \text{C}_6$ アシル、 $\text{C}_1 \sim \text{C}_6$ アシルオキシ、フェニル、ハロもしくはシアノ基であるか、又は R^1 及び R^2 は一緒になって環式基を形成していてもよく、

R^3 は、水素、又は $\text{C}_1 \sim \text{C}_6$ アルキル、フェニル、ハロもしくはシアノ基であり、

R^4 及び R^5 は独立に水素又はメチル基であり、

R^6 は水素又は $C_1 \sim C_{12}$ アルキル基であり、

X_1 は $-O-$ 又は $-NR-$ であり、ここで R は水素又はアルキルもしくはアリール基であり

X_2 は $-NR'-$ であり、ここで R' は水素又はアルキルもしくはアリール基であり、
 m は15～200の整数であり、 n は1～12の整数である)

により表されるトリアルコキシシリルポリエチレングリコールアクリレートを含む中間層を有する基材。

【請求項2】

R^1 及び R^2 が独立に水素又は $C_1 \sim C_4$ アルキル基もしくはフェニル基であり、 R^3 が水素又は $C_1 \sim C_3$ アルキルもしくはフェニル基であり、 R^6 が $C_1 \sim C_4$ アルキル基であり、 X_1 が $-O-$ 、 $-NH-$ 又は $-NCH_3-$ であり、 X_2 が $-NH-$ 又は $-NCH_3-$ であり、 m は20～70の整数であり、 n は2～6の整数である、請求項1に記載の基材。

【請求項3】

アルミニウム含有支持体を含む請求項1又は2に記載の基材。

【請求項4】

請求項1～3のいずれか一項に記載の基材を含み、当該基材上に、画像形成輻射線への露光後に処理液への不溶性がより高くなる画像形成性層を有するネガ型画像形成性要素。

【請求項5】

請求項1～3のいずれか一項に記載の基材を含み、当該基材上に、遊離基重合性成分、

画像形成赤外線への露光によって遊離基重合性基の重合を開始するのに十分な遊離基を生成することのできる開始剤組成物、

主鎖を有し、当該主鎖にペンダントポリ(アルキレンオキシド)側鎖、シアノ基、又は両方が結合しており、必要に応じて離散粒子の形態で存在する一次ポリマーバインダー、及び

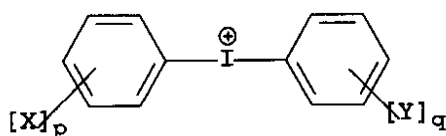
赤外線吸収性化合物、

を含む画像形成性層を有する、ネガ型の印刷機上で現像可能な画像形成性要素。

【請求項6】

前記開始剤組成物が、ヨードニウム化合物、又はジアリールヨードニウムカチオンとホウ素含有アニオンとの組み合わせを含み、前記ジアリールヨードニウムカチオンが下記構造(ⅠB)：

【化2】

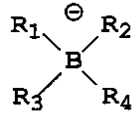


(IB)

(式中、X及びYは、独立に、ハロ、アルキル、アルコキシ、アリール又はシクロアルキル基であるか、あるいは、2つ若しくは3つ以上の隣接するX又はY基が結合して、それぞれのフェニル基と縮合炭素環式環又は複素環式環を形成していてもよく、p及びqは独立に0又は1～5の整数であり、ただし、p又はqは少なくとも1である)
により表され、

前記ホウ素含有アニオンが下記構造(ⅠB₂)：

【化 3】

(IB_Z)

(式中、R₁、R₂、R₃ 及び R₄は、独立に、アルキル、アリール、アルケニル、アルキニル、シクロアルキル又はヘテロシクリル基であるか、又は、R₁、R₂、R₃ 及び R₄のうちの2つ又は3つ以上が連結してホウ素原子を有する複素環式環を形成していてもよく、かかる環は7個以下の炭素、窒素又は酸素原子を有する)により表される、請求項5に記載の画像形成性要素。

【請求項7】

A) 赤外の画像形成輻射線を使用して請求項4～6のいずれか一項に記載の画像形成性要素を像様露光して露光領域及び非露光領域を生成すること、

B) 露光後のベーキング工程有り又は無しで、像様露光された要素を現像して、主に非露光領域のみを除去すること、を含む方法。